

日本生命保険相互会社（社長：清水博、以下「当社」）は、“子育ての壁や不安がない社会”をみんなで考え、共に作っていく「NISSAY ペンギンプロジェクト」（以下、「当プロジェクト」）を始動いたします。

当社では、SDGs 達成に向けたテーマの一つに、「貧困や格差を生まない社会の実現～次世代を社会で育む仕組づくり～」を掲げており、子どもたちの未来を応援する活動に積極的に取り組んできました。

近年、核家族化の進行や女性の社会進出等を背景に子育てを取り巻く環境は大きく変化  
する中、子育ての壁や不安を当事者だけに留めるのではなく、次世代に向けて社会全体で考  
えるべき問題として捉え、“みんなで子どもを育てる社会”の実現に向け、さまざまな情報  
発信（Think）や商品・サービスの提供および次世代育成のさらなる強化（Action）を通じ、  
より多くの方を応援してまいります。

# THINK! SNSやWebを使った情報発信



子育てしやすい社会について考える“きっかけ”となるような情報を発信していきます

### 子育て“あるある”を描いたマンガ

子育てに関わっていない層にも興味を持って  
いただけるよう、ペンギン社会を通じた描写に



WRITER  
内野こめこ / 作家

### 当プロジェクトの特設サイトを開設

プロジェクトにかける想いや具体的な取組みを  
まとめてじっくり閲覧いただける場所

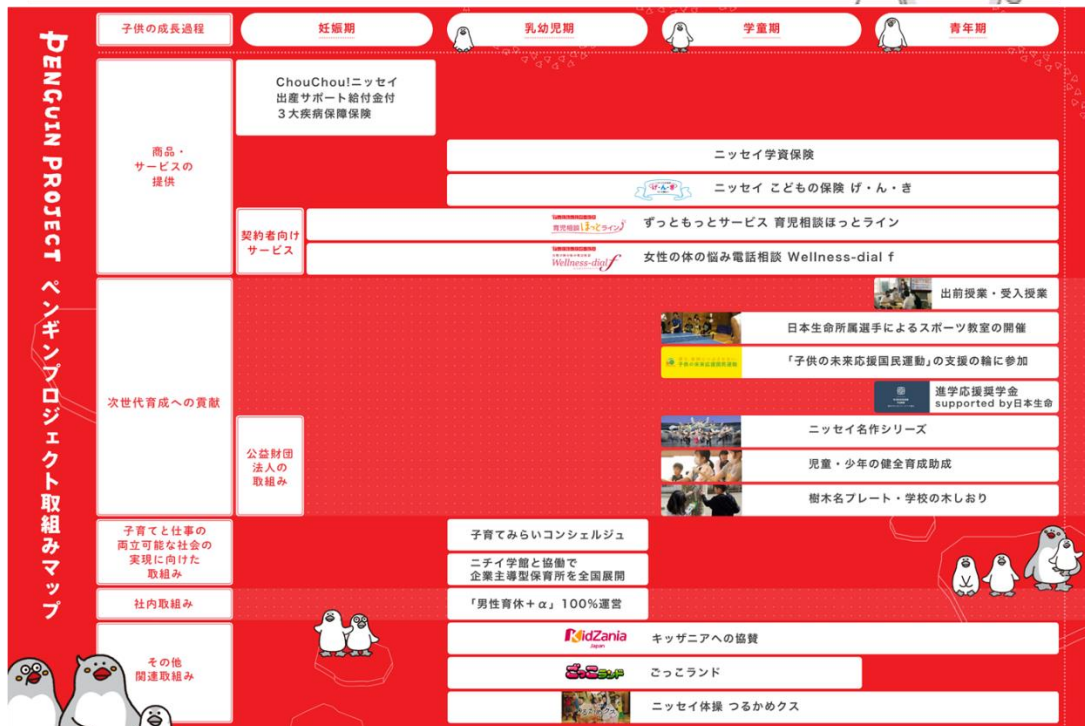


# ACTION! 商品・サービス提供および次世代育成を通じた子育てや子どもたちの未来の応援



子育てしやすい社会につながる具体的な行動をさらに拡げていきます

## これまでのACTIONマップ



## 取り組み強化するACTION例

### ➤ 次世代育成におけるパートナーシップの拡大

次代を担う子どもたちが安心して暮らせる仕組みづくりや心の健全育成に向けて、グループ会社一体となった社会貢献や、社会課題解決を目指す各種団体との協働取り組みを拡げてまいります。



### ➤ 企業主導型保育所マッチングサービスにおける発達支援や一時保育等のサービス拡充

子会社のライフケアパートナーズにて展開する「子育てみらいコンシェルジュ」において、保育所の質向上や子育て世帯の多様なニーズに対応する取り組みを強化してまいります。



なお、当社は、「人生 100 年時代」を一人ひとりが安心して自分らしくより豊かに生きられる長寿時代を目指し、「GranAge プロジェクト」を推進してきました。今後は、「NISSAY ペンギンプロジェクト」と「GranAge プロジェクト」を併せて展開し、人生 100 年時代をトータルでサポートすることで、あらゆる世代が安心して過ごせる社会の実現に向けてさらに取り組んでまいります。

## ■ 「NISSAY ペンギンプロジェクト」のステートメント

# 子育てしやすい社会を、みんなで。

**未来をつくるのは、いつだって子どもたち。けれど、この国では**

**多くの人が、子どもを育てることの難しさに直面しています。**

**みんながもっと自分らしく生きられる明日を叶えるために。**

**子どもたちが未来に向かって伸びやかに、自分の可能性をひろげることができるように。**

**群れ全体が協力しあって子どもを育てるペンギンのように、**

**子育ての壁や不安のない社会を、みんなで手を取り合ってつくっていこう。**

**子育てに頑張るすべての人を、そして子どもたちの未来を、私たちは全力でサポートします。**

<ロゴやステートメントに込めた想い>

群れ全体で協力して子どもを育てる習慣のある“ペンギン”をモチーフに、「みんなで子どもを育てる社会」の実現を目指すプロジェクトです。

コウテイペンギンは父親と母親が交互に卵を温め、両親が揃って狩りに出かけるときには、クレイシと呼ばれる集団を作って親ではない個体がヒナを守ります。まさに、「子育てしやすい社会をみんなで作る」を体現している動物であり、当プロジェクトのモチーフに相応しいと考えました。

### <WEB マンガ>

- ・掲載スケジュール：2022 年 3 月 25 日（金）第 1 話配信（随時配信）
- ・掲載場所：特設サイト <https://www.nissay.co.jp/kaisha/penguin/>  
公式 Twitter [https://twitter.com/nissay\\_official](https://twitter.com/nissay_official)

### <特設サイト>

- ・サイト開設：2022 年 3 月 25 日（金）
- ・URL：<https://www.nissay.co.jp/kaisha/penguin/>

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターの遠藤利彦センター長から当プロジェクトについてコメントをいただいております。



生物学上、人間はもともと、親が親族やコミュニティの支援を得て子育てをしていたとする「集団共同型子育て」仮説が提唱され、有力視されています。つまり、「みんなで子育て」は、人類がもともと行っていた子育ての形態、自然な形態である可能性が高いのです。

いまだ「子育ては母親がするべきだ」といった主張は根強くあり、そうした状況を改善していくためには、私たち一人ひとりが現代の事情にかなった「集団共同型子育て」のあり方を考えることが欠かせません。子どもたちにとって、先生や親などの大人たちは、何かあった時に駆け込める安全な避難所であり、探索や冒険に送り出し見護ってくれる安心の基地です。子どもの健やかな成長のためには、周囲の大人達が温かく見守り、応援していくことが大切です。

※当社から依頼して執筆いただいたものです。

※東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターと「子育てみらいコンシェルジュ」を展開する子会社の株式会社ライフケアパートナーズは保育の質の向上に資する共同研究を進めています。

以 上

2023-2130G, 広報部